

Nara Women's University

【内容の要旨及び審査の結果の要旨】 中国語敬語表現研究

| | |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: 出版者: 公開日: 2010-01-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 陳,瑞紅, 松尾,良樹, 奥村,悦三, 鈴木,広光, 弦巻,克二 メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/10935/1291 |

| | | | |
|---------|---------------|---------|--|
| 氏名(本籍) | 陳瑞紅 (台湾) | | |
| 学位の種類 | 博士(文学) | | |
| 学位記番号 | 博課第368号 | | |
| 学位授与年月日 | 平成20年3月24日 | | |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第1項該当 | | |
| | 人間文化研究科 | | |
| 論文題目 | 中国語敬語表現研究 | | |
| 論文審査委員 | (委員長) 教授 松尾良樹 | 教授 奥村悦三 | |
| | 准教授 鈴木広光 | 教授 弦巻克二 | |

論文内容の要旨

本研究は、台湾の中国語（台湾国語）を中心に、より研究の進んだ日本語の敬語体系を対照研究の基盤とし、中国の中国語（普通話）との比較研究を視野に入れつつ、文学作品資料のデータを通して、実証的に、中国語の丁寧さを表わす表現の敬語との関連を究明することにより、中国語の敬語表現の使用状況及びその体系を明らかにしようとするものである。本論文は6章からなっている。

第1章の序論は、中国語の敬語表現に関する先行研究およびそれを踏まえての問題提起をまとめたものである。従来の敬語研究は、語彙のレベルにとどまり、語用論的、機能論的及び構文論的な角度から、文法範疇としての「敬語」をもたない中国語では、敬語との関連を論じる先行研究が数少ないこと、台湾国語における敬語表現は殆ど論じられなかったことを指摘した。

第2章では、1989年から2004年にかけて、台湾で出版された吉本ばななの作品の翻訳（12点19種）を調査資料とした。言語的な観点から戦前の「国語」（日本語）と戦後の「国語」を経験してきたという台湾国語の背景をふまえた上で、日本語における敬語表現との対照を通し、二人称代名詞「您」、中国語の丁寧語、尊敬語と謙譲語としての「嘗」、と三つに分けて台湾国語における敬語表現とその使用を概観した。第1章の考察により、以下のような結果が得られた。「您」「令堂」「嘗」などの伝統的な敬語表現が台湾国語において使われていること、翻訳中での例は次の三つの要素が満たされるので、中国語にも「丁寧語」として扱われる要素が存在しているものと思われる。また、「不好意思」「請教～」「請～（一下）」「幫（您）～」など敬意度の高い構文が「您」とともに用いられる。

第3章は、第2章の考察をふまえて二人称代名詞の使用と敬語の関連を考察したものである。1976年から1985年にかけて、唐魯孫により書かれた作品（130万字）を調査資料とした。考察は、まず作品

中での「您」と単・複数形「你」「你們」の分布数を調べた。そして、語法機能と語用論的性質の相関性を踏まえて「您」と「你」の使い分けを検討した。作品中での二人称代名詞の約7割が「您」であり、「你」と「你們」を合わせた3割を大きく上回っている。「您」は分布数の約8割が作者唐魯孫が読者に話しかけるのに用いる「丁寧語的」用法であるのに対し、「你」の約4割は不特定の全ての人をさす、連代句、実際には話し手を現す構文で用いられている。また、語用論的な許容性は機能論的な環境に左右され、対話中では「您」と「你」が混ざって使われることがある。次に丁寧さを表わす構文、及び単数に対し複数形で示す「你們」の敬語との関連を考察することにより、以下のような結論が得られた。呼称、丁寧さを表す動詞、お詫びの言葉、「你們」+量詞・数詞といった表現は語用論上丁寧さを欠く表現を補うことができる。先行研究や作品中での用例分析と筆者の内省により、単数に対し複数で示す「你們」は話し手が謙遜の気持ちを表わす例においても、マイナスの文脈を示す例においても、話し手は聞き手に対する配慮を前提として相手のことを直接「你」と呼ぶことを遠慮する。よって、丁寧さを表わす構文、単数に対し複数で示す「你們」は敬語表現機能を有すると考えられる。

第4章は、第3章の研究の発展である。1980年から1999年まで、台湾と中国の戦後生まれの作家により書かれた口語体短編小説(20点ずつ)を調査資料にした。第2章同様に、作品中での「您」と単・複数形「你」「你們」の分布数を調べた。そして、語法機能と語用論的性質の相関性を踏まえて台湾国語と普通話における「您」と「你」の使用を比較した。どちらも二人称代名詞の約9割が「你」であり、「您」と「你們」をあわせた1割を大きく上回っている。「你」「您」「你們」が用いられる機能は主語が最も多く、賓語、定語、兼語が続いている。「您」の使用において、待遇表現・親族・特別な事情などが共通である。「你」において、「你」+名詞・名詞+「你」、独立語文、実際は「我」をさす、相手を罵る表現、不特定の人をさす、連代句、感嘆詞、以上のような構文に用いられるのが共通点である。相違点は複合語、「VP+「你」、修飾される機能、複数に対し単数で示す、この三つにある。「呼びかけ」「丁寧さを表わす語」「正反疑問文」「複数で単数を示す複数形「你們」、これらの構文においても敬語との関連についての再検討を行い、不躱な表現の丁寧さを補うことができることから、これらの丁寧さを表わす構文は敬意表現機能を有すると考えた。

第5章では、「正反疑問文」を取り上げ、丁寧さを表わす構文での敬語との関連をより深く考察した。1983年から1999年にかけて書かれた台湾映画の脚本(6点)を調査資料とした。語法機能から作品中での「V不V」「V没V」「A不A(Aは助動詞をさす)」の分布数を文末及び文中グループに分けると、文中グループが「V不V」「V没V」「A不A」の7割を占め、文末グループの占める3割を大きく上回っている。考察は、まず文中グループを語用論上から(A)肯定と否定の選択肢を与えるタイプ(B)自問自答・独り言タイプ(C)依頼・命令タイプ、という三つに分けて語法機能と語用論的性質の相関性を考察した。続けて、正反疑問文の位置づけを踏まえて、提案の文脈に用いられる「是不是+VP」、

勧誘の文脈に用いられる「有没有+NP」、依頼の文脈に用いられる「A不A+VP」の三つに分けて、用例を検討し実証的に、正反疑問文の敬語表現機能についての考察を行った。提案・勧誘・依頼の文脈においては、是非疑問文や命令文よりも、正反疑問文を用いるほうが、婉曲で丁寧な感じを与えるということから、正反疑問文が敬語表現機能を有すると考えられる。

第6章の結語は本論文の各章で検討した問題点及びその結果をまとめたものである。本研究の考察により、敬語表現として用いられる丁寧さを表わす構文が中国語敬語において多く機能しているという結論に至った。

論文審査の結果の要旨

本論文は6章から構成されており、第2章から第5章までの各章で個別の問題を論じ、全体として標題の「中国語敬語表現」の研究となっている。

第2章「日本語と中国語の敬語表現」は台湾で出版された吉本ばなの作品の翻訳(12点・19種)を資料として、作品中の会話文に現れる敬語表現を原作の日本語の敬語表現と対照しながら、調査考察したものである。二人称代名詞の敬語形「您」の分析、中国語の丁寧表現、「食べる」という意味の動詞「嘗」が尊敬・謙譲の用法を有することが論じられている。このうち丁寧表現については、用例も十分ではなく、更なる検討が必要であると指摘がなされた。

第3章「台湾国語における二人称代名詞「您」と「你」の使用について」は、台湾国語の代表として、唐魯孫という作家を選び、1976年から1985年にかけての作品(130万字余)を資料として、二人称代名詞「你」と敬語形の「您」の使用状況を調査、あわせて複数形「你們」にも調査を及ぼした。全用例833例のうち「您」が569例と7割を占め、「你」の235例(28%)を上回ったという調査結果をもとに、「您」「你」「你們」について語法機能を分析し、「您」と「你」の使い分けを分析した。その分析の中から、「你」を用いても「呼びかけ・丁寧さを表わす動詞・お詫びの言葉」などと共に用いれば敬語機能を果しうることを示した。さらに一人の人に対して複数形「你們」を用いることも敬語的用法であることを例示して示した。

第4章「二人称代名詞の使用と丁寧さを表わす構文の関連について」は中国の標準語(普通語)と台湾の標準語(台湾国語)の差異を視野に、二人称代名詞の使用状況、丁寧さを表わす構文の使用を調査した。戦後生れの作家によって、1980年から1999年までに書かれた口語体短篇小说を、中国・台湾それぞれ20点ずつを選び出して資料とし、調査分析を進めた。

本論文では「你」「您」の分析にとどまらず、「呼びかけ」「丁寧さを表わす語」「正反疑問文」「単数に対して用いられる複数形・你們」などは、丁寧さを表わす構文であり、敬意表現機能を有する、敬語表現であると結論づけた。論文冒頭に提示されている調査結果(台湾国語では「您」3%、「你」92%。普通語で「您」2%、「你」90%)が有意な差を示しているかどうか考える必要がある。この結果、台湾国語と普通語で「你」「您」の使用頻度から差がないことを読みとり、むしろ第3章の唐魯孫作品の(「您」70%「你」28%)というデータの特異性の考察に結びつけるべきだとの指摘がなされた。

第5章「正反疑問文の敬語表現機能について」は1983年から1999年にかけて書かれた台湾映画の脚本(6点)を資料として調査分析を進め、提案・勧誘・依頼の文脈においては、命令文や是非疑問文

を用いるよりも、正反疑問文を用いる方が、婉曲で丁寧な感じを与えること、正反疑問文は敬語表現機能を有することを資料の分析を通じて論じた。

従来、現代中国語には敬語表現は極めて少ない、日常の口頭言語で用いられるのは、二人称代名詞「你」の敬語形「您」、量詞（助数詞）の「位」などに限られるとされてきた。本論文は語彙に限定して考えられていた中国語の敬語表現を丁寧さを表わす表現に考察の範囲を広げ、敬語表現との関連を追及している。第5章のように論証の不十分さが目につく部分はあるが、全体として妥当な結論に達していると評価できる。

本論文の第2章は『人間文化研究年報』第21号に掲載され、その後『中国関係論説資料』第48号に採録された。第3章は「日本中国語学会」第56回大会（2006年10月）で研究発表。第4章は「日本台湾学会」第5回関西支部研究大会（2007年12月）で研究発表。第5章は「日本中国語学会」第57回大会（2007年10月）で研究発表。学会の審査を経て発表の機会を与えられており、一定の評価を得ている。